

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 自己点検・自己評価報告書 (第16号)

(令和5年度実施事業)

小規模ながら確固たる個性と存在感があり
未来に向かって新しい価値を創造する学園

令和6年11月

学校法人 三室戸学園

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検・自己評価
報告書の作成に当たって

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学は、それぞれの学則に「教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行う」ことを定めています。

今回実施した自己点検・自己評価は、令和5年度に実施した事業を対象としています。評価の実施に当たっては、事業計画における重点項目に焦点を当て、本学の教育研究等が学則に定める教育目的に沿って実施されているか、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を起点とした内部質保証システムが適切に機能して実行されたか、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から、自己点検・自己評価を行うこととしました。

また、客観性のある評価を行うため、本学園の役員・教職員以外の方に評価を行っていただきました。

少子高齢化や音楽を志す受験生が減少するなど社会的状況が大きく変化する中、本学園は経営改善計画を策定し、それを実行に移す段階を迎えています。

今後も東邦音楽大学及び東邦音楽短期大学は、継続的に教育研究の充実・強化に取組み、教育研究等の質をこれまで以上に高め、有為な人材の育成に貢献して参ります。

令和6年11月

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学
学 長 三室戸 東 光

目 次

1 東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検・自己評価報告書作成者	1
2 東邦音楽大学 教育改革への取り組みに関する評価表	2
3 令和5年度東邦音楽大学における実施事業の概要（評価判定項目別）	3
4 東邦音楽短期大学 教育改革への取り組みに関する評価表	4
5 令和5年度東邦音楽短期大学における実施事業の概要（評価判定項目別）	5
【令和5年度事業報告書】	6
Ⅰ 法人の概要	6
Ⅱ 事業の概要	8
Ⅲ 項目別取組状況	8
1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	8
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	11
Ⅳ 令和5年度コンクール等の受賞者	15
Ⅴ 令和5年度主な演奏会等実施一覧	17
Ⅵ フォトギャラリー	18
Ⅶ 財務の概要	24
1 決算の概要	24
2 有価証券、借入金等の状況	27
3 財産目録	28
4 主な財務関連用語の説明	29

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学
自己点検・自己評価報告書作成者

(順不同、敬称略)

○ 外部評価員

(大学評価)	川越市文化スポーツ部 副部長	奥 富 和 也
(短期大学評価)	文京区アカデミー推進課長	川 崎 慎一郎

○ 自己点検・自己評価特別検討委員会

委員長	三室戸 東 光		
委 員	山 崎 明 美	高 橋 幸 雄	遠 山 菜穂美
	佐 藤 泰 弘	秦 は る ひ	宮 野 陽 子
	粕 谷 宏 美	木 下 容 子	太 田 惠 雄
	江 沢 博 昭	田 中 健 一	杉 村 聖 治

<大学自己点検・評価部会>

委員長	遠 山 菜穂美		
副委員長	高 橋 幸 雄		
委 員	粕 谷 宏 美子	山 崎 明 美	中 島 裕 紀
	木 下 容 子	伊 藤 和 広	國 谷 尊 之
	益 田 善 太	大 熊 信 彦	石 橋 裕
	佐 藤 泰 弘	田 中 健 一	江 沢 博 昭
	太 田 惠 雄		

<短期大学自己点検・評価部会>

委員長	國 谷 尊 之		
副委員長	高 橋 幸 雄		
委 員	小 林 律 子	岩 間 丈 正	岩 見 真佐子
	井 上 淳 司	江 沢 博 昭	太 田 惠 雄

東邦音楽大学 教育改革への取組みに関する評価表

(令和5年度実施事業分)

○ 評 価

本学学則の教育の目的に沿って実施されているか、三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から、下記により点数を記入。

- ・教育改善が大きく進んでいる…… 5
- ・教育改善が概ね進んでいる……… 3
- ・教育改善が遅れている…………… 1
- ・教育改善が順調に進んでいる…… 4
- ・教育改善がやや遅れている……… 2

評価校	東邦音楽大学									
評価者	(外部評価) 川越市文化スポーツ部副部長 奥富 和也					(自己評価) 自己点検・自己評価特別検討 委員会大学部会				
評価項目	評価点数					評価点数				
1 入学者選抜	5	4	③	2	1	5	4	③	2	1
2 カリキュラムの 内容・学修方法・ 学修支援	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
3 学修成果	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
4 教員組織	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
5 施設・設備	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
6 社会貢献	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1

○ 外部評価のコメント

音楽に関する専門大学（教育機関）として、文化芸術の振興に向けて、音楽文化の発展を担う人材の育成など実施事業全般にわたり教育改革に取り組んでいる点を評価しております。特に、社会貢献分野におきましては、自治体との協定を踏まえた社会連携事業を展開されていることや地域と密接に連携した社会貢献活動を実施されていることなど、地域とのかかわりを大切にされ、積極的に前向きな姿勢を高く評価しました。

※ 実施事業から、項目別に2・3点を掲載したもの

1. 入学者選抜

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づき、行動計画(イベント年間スケジュール)を策定し募集活動を行った。
- ・ 大学、短期大学オープンキャンパスを各4回実施し、本学の紹介、レッスンの体験の場を設けた。(6月、7月、8月、3月)
- ・ スキルアップ講習会を実施し、楽典、聴音、実技レッスン、小論文の指導を行い、受験生の学習支援に努めた。
- ・ 学生募集を目的とした高等学校訪問により、吹奏楽指導58校、ガイダンス・模擬授業45校、学校挨拶(学校紹介等のみ)20校を、それぞれ実施した。

3. 学修成果

- ・ 新型コロナウイルスの感染症の位置づけが、令和5年5月8日から「5類感染症」になったことを受け、「東邦ウィーンアカデミー」については、大学3・4年生の2学年分の研修を9月22日よりスタートした。年度末までに計11回、延べ131名の学生が参加し、無事終了することができた。
- ・ 演奏演習(演奏旅行)については、東邦ウィーンアカデミーとのスケジュールの兼ね合いによりハンガリーへの渡航ができないことから、昨年と同様リゾナーレハケ岳において国内での演奏収録旅行とし、10月24～26日に実施した。収録VTRをハンガリー現地に配信し好評を博した。
- ・ キャリア支援等教職員の支援により、令和6年3月卒業の大学生56名のうち就職希望者34名全員が就職した(就職率100%)。

5. 施設・設備

- ・ 修学環境整備として、文京キャンパスのパフォーマンス総合芸術文化専攻教室への大型モニター設置、川越キャンパス 9号館全館LED化等を行った。
- ・ 学内環境の利便性向上と衛生環境を確保するため、9号館、12号館、13号館のトイレをウォッシュレット機能付トイレに改修工事を行った。その他、経年劣化の修繕としてグラントザール及び16号館のGHP空調設備の修繕工事を行い教育環境の維持に努めた。

2. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援

- ・ 大学教育の質向上に向けて、教員のティーチングポートフォリオを導入し、また、学生自身の学びを振り返るため、レーダーチャートによる学修成果可視化への取り組みを進めた。
- ・ 入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、学び方の基本を身に付けさせることとし入学前教育の充実をはかった。
- ・ 令和5年度奨学金は「東邦令和特別奨学金」として、大学生3名、大学院生1名に各24万円を給付し、「東邦音楽大学奨学金」として3名に各40万円を給付した。

4. 教員組織

- ・ データサイエンスが急速に進展している昨今の社会環境下で、教育現場でも問題となっている、生成AI、Chat GPTをテーマとするFD研修会を実施した。
【講師】杉谷 宣紀氏(城西大学数理・データサイエンスセンター助教)
【テーマ】「音楽大学とデータサイエンス教育について」
- ・ 「教育の内部質保証の方針」に従い、専攻別ディプロマポリシー、東邦スタンダードルーブリック、レポートルーブリック、成績の相対評価基準などの教育指標の導入を進めた。
- ・ 令和4年度の科学研究費「若手研究」で、「ドイツ語のリズム規定における『弱化』の知覚と生成」(准教授)が採択され、採択者は学会発表及び論文執筆を継続的に行うとともに、上智大学の共同研究員として本研究の高度化に取り組んでいる。

6. 社会貢献

- ・ 川越市との協定に基づき、9月9日に市主催「2音大クラシック・コンサート」において、尚美学園大学と東邦音楽大学との競演を行い、また、11月25日に大学間連携講座「オーケストラの魅力」を開催した。
- ・ 6月14日にふじみ野市との協定に基づき、ふじみ野市小学校音楽鑑賞教室を開催した。
- ・ 12月10日に川越市南古谷地域会議主催「0歳児からのコンサートin南古谷」を実施した。
- ・ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)連携協定に基づき、TJUP公開講座「音楽大学の授業(ベートーヴェン編)×はじめてのフルート体験」を実施した。

東邦音楽短期大学 教育改革への取組みに関する評価表
(令和5年度実施事業分)

○ 評 価

本学学則の教育の目的に沿って実施されているか、三つのポリシー（アドミSSION・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から、下記により点数を記入。

- ・教育改革が大きく進んでいる…… 5 ・教育改革が順調に進んでいる…… 4
- ・教育改革が概ね進んでいる…… 3 ・教育改革がやや遅れている…… 2
- ・教育改革が遅れている…… 1

評価校	東邦音楽短期大学									
評価者	(外部評価) 文京区アカデミー推進課長 川崎 慎一郎					(自己評価) 自己点検・自己評価特別検討 委員会短期大学部会				
評価項目	評価点数					評価点数				
1 入学者選抜	5	4	③	2	1	5	4	③	2	1
2 カリキュラムの内容・ 学修方法・学修支援	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
3 学習成果	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
4 教員組織	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
5 施設・設備	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
6 社会貢献	⑤	4	3	2	1	5	④	3	2	1

○ 外部評価のコメント

貴学は、様々な自治体との協定に基づき、積極的に社会連携及び地域貢献事業を推進するなど、地域社会における音楽文化の向上に寄与されております。長年の伝統にふさわしい教育・研究環境を整備し、内外に誇れる音楽教育の学園として発展しております。一方、少子化に伴う困難な経営環境はさらに厳しさを増していることから、引き続き経営改善に取り組むことで、学園が更なる発展をされますことを期待しております。

1. 入学者選抜

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づき、行動計画(イベント年間スケジュール)を策定し募集活動を行った。
- ・ 音楽教養専攻に「文化教養コース」を新設して「実技教養コース」と合わせて2コース制とする組織改革計画を作成した。
「文化教養コース」はミドル・シニア世代を対象に、声楽や楽器演奏などの実技は専門的に学んでこなかったが、音楽理論、歴史、文化などを学ぶことにより音楽芸術を探究し、造詣を一層深めたいと考えている社会人向けのコースとして令和6年度からスタートする。

2. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援

- ・ 大学教育の質向上に向けて、学生自身の学びを振り返るため、レーダーチャートによる学修成果可視化への取り組みに着手した。
- ・ ディプロマポリシーに示された学習成果と各授業科目との関連について学生が確実に理解できるよう、「東邦スタンダード」テキストにディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを掲載し、その関連について考察する機会を持つこととした。
- ・ 入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、学び方の基本を身に付けさせることとし入学前教育の充実をはかった。

3. 学習成果

- ・ 10月に沖縄県恩納村立仲泊小学校からの熱心な要請に基づき、短期大学の学生国内演奏旅行を実施した。現地の小学生達から歓迎されるとともに、短期大学での学習成果を社会に生かす実践の機会を持つことができた。
- ・ インターンシップ成果発表を東邦スタンダード授業で実施し、学習成果の共有を図った。(実施日 令和5年10月11日 於:文京キャンパス628教室)
- ・ キャリア支援等教職員の支援により、短期大学においては令和6年3月卒業の卒業生11名のうち就職希望者4名全員が就職した(就職率100%)。

4. 教員組織

- ・ 令和5年6月に東邦音楽短期大学自己点検評価書を取りまとめ、それらを基に、一般財団法人大学・短期大学基準協会による短期大学認証評価を受審した。
その結果、協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、令和6年3月8日付で「適格と認める」との評価報告を受けた。「優れている点」として7項目について言及があった。
- ・ データサイエンスが急速に進展している昨今の社会環境下で、教育現場でも問題となっている、生成AI、Chat GPTをテーマとするFD研修会を実施した。
【講師】杉谷 宣紀氏(城西大学数理・データサイエンスセンター助教)
【テーマ】「音楽大学とデータサイエンス教育について」

5. 施設・設備

- ・ ICT環境整備の一環として進める「無線LAN整備計画(令和3～5年度)」に基づき、文京キャンパス2号館・7号館の無線LAN設備整備工事を終え、文京・川越両キャンパスの全館整備計画が完了した。これにより学生生徒・教職員が教育研究、学習に自由にアクセスが可能な安定したネットワークを提供し、デジタル教材など幅広いシーンで有効的に利活用されるものとなった。
- ・ 文京キャンパス7号館の教室・レッスン室の照明設備を節電効果の高いLED照明に順次交換を進め令和5年度末時点で8割程度完了した。引き続きLED化計画を進め令和6年度中に7号館全館の完了を目指すこととし、安全で明るい快適な教育環境の向上に努めていく。

6. 社会貢献

- ・ 附属東邦中学校・東邦高等学校が、ユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会との共催で、大学・短期大学教員の協力も得て、東京都豊島区「南大塚ホール」並びに北区北とぴあ「つつじホール」において、クラシックコンサートを開催した。
- ・ 2004(平成16)年から実施している文京アカデミー大学連携講座は、コロナ禍の影響が残ったものの、令和5年度はウクレレ、声楽、音楽史、フルートの4講座について実施することができた。

令和5年度 事業報告書

[学校法人 三室戸学園]

I 法人の概要

1 基本情報

- (1) 法人の名称：学校法人三室戸学園
- (2) 主たる事務所の住所：東京都文京区大塚 4 - 46 - 9

2 建学の精神

音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格形成を目途とする。

3 学校法人の沿革

学校法人三室戸学園は、学祖三室戸敬光が昭和9(1934)年11月、東京高等音楽学院学院長在職中に私財を投じて、「東京高等音楽学院大塚分教場」を開設し、昭和13(1938)年2月に三室戸為光がこれを継承し、東京都文京区に分離独立の上、「東邦音楽学校」と改称し、昼夜二部制の音楽理論と実技の授業を行う全国最初の学校としてスタートした時に始まる。

昭和22(1947)年に東邦中学校(男女共学)を開学、翌年には東邦高等学校を開学し、普通科に加え、全国初となる音楽科を開設した。

昭和26(1951)年に東邦音楽短期大学(音楽科)を開学、昭和38(1963)年に埼玉県川越市今泉に川越キャンパスを整備し、東邦第二高等学校(普通科・女子)を開学した。なお、同高等学校は、昭和44(1969)年に普通科を音楽科に改め、平成15(2003)年に男女共学制に移行している。

昭和40(1965)年に川越キャンパスに東邦音楽大学(音楽学部音楽学科)を開学し、平成13(2001)年には東邦中学校、東邦高等学校、東邦第二高等学校を大学の附属学校とした。さらに、平成16(2004)年に東邦音楽大学大学院(音楽研究科修士課程)を開設した。

令和5年度には、東邦音楽短期大学の入学者の現状に鑑み、総合的な判断から入学定員の変更(50名→20名)を行った。

4 設置する学校、学部、学科

- 東邦音楽大学大学院 [音楽研究科]
- 東邦音楽大学 [音楽学部音楽学科]
- 東邦音楽短期大学 [音楽科]
- 東邦音楽大学附属東邦高等学校(全日制的課程) [音楽科]
- 東邦音楽大学附属東邦第二高等学校(全日制的課程) [音楽科]
- 東邦音楽大学附属東邦中学校
- 東邦音楽学校

5 学生・生徒数（令和5年5月1日現在）

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
東邦音楽大学大学院	15 人	15 人	30 人	35 人
東邦音楽大学	100 人	67 人	420 人	282 人
東邦音楽短期大学	20 人	14 人	70 人	32 人
附属東邦高等学校	60 人	12 人	180 人	44 人
附属東邦第二高等学校	40 人	21 人	120 人	68 人
附属東邦中学校	40 人	13 人	120 人	34 人
東邦音楽学校	一人	一人	一人	一人

6 収容定員充足率（令和5年5月1日現在）

学校名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
東邦音楽大学	55.2%	57.6%	63.6%	67.6%	67.1%
東邦音楽短期大学	74.0%	58.0%	35.0%	27.0%	45.7%

7 役員の概要（令和5年5月1日現在）

（1）定員数

理事：5人以上7人以内、監事：2人

（2）役員の氏名

理事長：三室戸東光

理 事：粕谷宏美、三室戸元光、太田恵雄、西修一郎、佐浦國雄

監 事：上田 孝、和田正夫

8 評議員の概要（令和5年5月1日現在）

定員数：11人以上23人以内、現員数：14人

9 教職員の概要（令和5年5月1日現在） ※（ ）うち特任教員数

学校名	教授	准教授	専任講師	講師	計
東邦音楽大学大学院	7 (7)	2 (2)	0	6	15
東邦音楽大学	16 (13)	14 (7)	5 (2)	88	123
東邦音楽短期大学	3	1	3 (2)	4	11
計	26	17	8	98	149

学校名	校長	教頭	教諭	講師	計
東邦中学校	1	1	4	5	9
東邦高等学校			4	10	16
東邦音楽学校		0	0	12	12
東邦第二高等学校	1	1	5	11	18
計	2	2	13	38	55

※校長、教頭は高校の教員にカウント

キャンパス	事務職員
文京キャンパス	27
川越キャンパス	19

II 事業の概要

令和5年度は、第四期中期計画（2021（令和3）～2025（令和7）年）が掲げる5年計画の3年目であった。令和3年度から開始した第4期中期計画においては、本学園を取り巻く厳しい環境の下、学生生徒の確保と安定した財務基盤の構築に向けて教育研究活動に真摯に取り組んできた。

しかしながら、令和4年12月に文部科学省学校法人運営調査委員による訪問調査を受審し指導・助言を受けたことを契機に、改めて本学園の経営状況を調査・分析したところ、このままでは学園の将来が見通せないという危機感をもって、新たに三室戸学園経営改善計画の策定に取り組んだ。今回の経営改善計画では構造改革を含む抜本的な改革が求められていることから、年度内に成案を得ることはできなかったが、令和6年度の早い段階で計画策定を終了し、早急に実施に取り組むことが望まれる。

その一方で、教育研究活動面では、ほぼコロナ禍前の環境に戻り令和5年度の事業計画に則って各事業を実施することができた。

III 項目別取組状況

令和5年度に実施した取組の主な内容は、以下に示すとおりである。

1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組

（1）大学及び短期大学等の教育に関する目標を達成するための取組

① 学生募集活動

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づき、行動計画（イベント年間スケジュール）を策定し募集活動を行った。
- ・ 大学、短期大学オープンキャンパスを各4回実施し、本学の紹介、レッスンの体験の場を設けた。（6月、7月、8月、3月）
- ・ パフォーマンス総合芸術文化専攻（P.A.C.S）プロモーションを5回実施し、教育の内容及び専攻の魅力についてのプレゼンテーション、進学相談を実施した。（6月、7月、9月、12月、3月）
- ・ 音楽療法入門講座を8回実施し、音楽療法専攻の内容及びその魅力について説明し、進学相談を実施した。（5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、2月）
- ・ 総合型選抜の対策として基礎力診断を5回実施した。（6月、7月、8月、9月、10月）
- ・ 受験生支援としてスキルアップ講習会を6回実施し、楽典、聴音、実技レッスン、小論文の指導を行った。（6月、7月、8月、9月、10月、12月）
- ・ 学生募集を目的とした高等学校訪問により、吹奏楽指導58校、ガイダンス・模擬授業45校、学校挨拶（学校紹介等のみ）20校を、それぞれ実施した。

② 教育内容・教育成果等の充実

- ・ 大学教育の質向上に向けて、教員のティーチングポートフォリオを導入し、また、学生自身の学びを振り返るため、レーダーチャートによる学修成果可視化への取り組みに着手した。
- ・ インターンシップ成果発表を東邦スタンダード授業で実施し、学修成果の共有を図った。令和5年度の成果発表日、参加者は以下のとおり。

令和 5 年 11 月 1 日 於：グランツザール インターンシップ参加者数：6 名
令和 5 年 10 月 11 日 於：グランツザール インターンシップ参加者数：1 名

- ・ 本学のインターンシップ活動について、その独創的なプログラム展開や多様な機会創出の観点より学生からの高評価が認められ、「第 6 回学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード入賞」を授与された。

③ 教育の実施体制等の充実・強化

- ・ データサイエンスが急速に進展している昨今の社会環境下で、教育現場でも問題となっている、生成 AI、Chat GPT をテーマとする F D 研修会を実施した。

【講 師】杉谷 宣紀氏（城西大学数理・データサイエンスセンター助教）

【テーマ】「音楽大学とデータサイエンス教育について」

④ 学生への支援の充実

- ・ 入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、学び方の基本を身に付けさせることとし入学前教育の充実をはかった。
- ・ 令和 5 年度奨学金は「東邦令和特別奨学金」として、大学生 3 名、大学院生 1 名に各 24 万円を給付し、「東邦音楽大学奨学金」として 3 名に各 40 万円を給付した。
- ・ キャリア支援等教職員の支援により、令和 6 年 3 月卒業の大学生 56 名のうち就職希望者 34 名全員が就職した（就職率 100%）。また、短期大学においても卒業生 11 名のうち就職希望者 4 名全員が就職した（就職率 100%）。

⑤ 国際化の推進

- ・ 新型コロナウイルスの感染症の位置づけが、令和 5 年 5 月 8 日から「5 類感染症」になったことを受け、「東邦ウィーンアカデミー」については、大学 3・4 年生の 2 学年分の研修を 9 月 22 日よりスタートした。年度末までに計 11 回、延べ 131 名の学生が参加し、無事終了することができた。
- ・ 演奏演習（演奏旅行）については、東邦ウィーンアカデミーとのスケジュールの兼ね合いによりハンガリーへの渡航ができないことから、昨年と同様リゾナーレハッヘ岳において国内での演奏収録旅行とし、10 月 24 日～26 日に実施した。収録 VTR をハンガリー現地に配信し好評を博した。

（2） 附属学校等に関する目標を達成するための取組

① 生徒及び受講生の確保

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づいて、「令和 5 年度生徒獲得増に向けた行動計画」を策定し、募集活動を行った。
- ・ 卒業生情報センターによる音楽教室等を主宰する卒業生訪問を行い、入学者の確保に努めた。その結果、令和 5 年度に各附属学校に計 12 名が入学した。

② 附属学校における教育の充実

- ・ 東邦中学校と東邦高等学校の合同編成や第二高等学校全学年の合同編成によりウインドオーケストラを実施するなど、実践的な授業を行った。
- ・ 少人数制による One to One のきめ細かい教育の実践に努めた。また、大学、短期大学の教授陣による個人レッスンを実施した。

- ・ 11月3日にフランス・パリのマドレーヌ寺院において「世界遺産トーチランコンサート in パリ」を開催し、卒業生を含む附属中・高生計28名が出演した。

③ 高大接続と相互連携の強化

- ・ 本学の2つの附属高等学校の生徒を対象に「体験授業」を実施した。
- ・ 附属高校と大学及び短期大学が相互の連携強化ができるよう、責任者会議を各校と3回開催した。
- ・ 大学及び短期大学の教員が附属高等学校生徒を対象にしたスペシャルオープンキャンパスにおいて、本学の教育体制等について説明を行った。

(3) 研究に関する目標を達成するための取組

① 研究の推進と研究水準の高度化

- ・ 令和4年度の科学研究費「若手研究」で、「ドイツ語のリズム規定における『弱化』の知覚と生成」(准教授)が採択され、令和6年度は最終年度を迎えている。なお、採択者は学会発表及び論文執筆を継続的に行うとともに、上智大学の共同研究員として本研究の高度化に取り組んでいる。
- ・ 令和5年度は、新たに2名の教員が科学研究費に申請した。
- ・ 大学院学生及び学部生に対する研究指導を充実させるとともに、研究倫理教育を実施した。

② 研究推進体制等の充実

- ・ 研究推進・倫理委員会を定期的で開催(4回)し、研究推進方策等について、関係部門との連携などの検討を進めた。

③ 研究成果の積極的な公表

- ・ 教員の研究成果をまとめ、公表するため、研究紀要第30号を発行し、第31号の発行に向けて準備中である。
- ・ 学園ウェブサイトの「教育研究者一覧」について、掲載内容の充実に努めた。

(4) 社会連携及び社会貢献に関する目標を達成するための取組

① 社会連携事業の推進

- ・ 川越市との協定に基づき、9月9日に市主催「2音大クラシック・コンサート」において、尚美学園大学と東邦音楽大学との競演を行い、また、11月25日に大学間連携講座「オーケストラの魅力」を開催した。
- ・ 2004(平成16)年から実施している文京アカデミー大学連携講座は、コロナ禍の影響が残ったものの、令和5年度はウクレレ、声楽、音楽史、フルートの4講座について実施することができた。
- ・ ふじみ野市との協定に基づき、6月14日にふじみ野市小学校音楽鑑賞教室(ウインドオーケストラ)を開催した。
- ・ 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)連携協定に基づき、TJUP公開講座「音楽大学の授業(ベートーヴェン編)×はじめてのフルート体験」を実施した。

【参考】自治体等との協定締結一覧

協 定 締 結 先	締結年月
埼玉県川越市	平成 19 年 11 月
東京都文京区	平成 20 年 3 月
新国立劇場運営財団	平成 27 年 6 月
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	平成 27 年 12 月
埼玉県ふじみ野市	平成 28 年 5 月
埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）発足	平成 30 年 9 月
埼玉県和光市・和光市文化振興公社	平成 31 年 4 月

② 社会貢献活動の推進

- ・ 6 月 16 日に東京都青梅市小学校音楽鑑賞教室（オーケストラ）を実施した。
- ・ 12 月 10 日に川越市南古谷地域会議主催「0 歳児からのコンサート in 南古谷」を実施した。
- ・ 2 月 25 日に埼玉県日高市ファミリーコンサート「親子のためのワンダー・キンダー・コンサート」イン日高（学生有志）を実施した。
- ・ 10 月に沖縄県恩納村立仲泊小学校からの熱心な要請に基づき、短期大学の学生国内演奏旅行を実施した。現地の小学生達から歓迎されるとともに、楽しんでいただける演奏会を開催することができた。
- ・ 附属中学校・高等学校は、ユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会と共催で、東京都豊島区「南大塚ホール」（4 月 8 日）並びに北区北とびあ「つつじホール」（9 月 27 日）において、クラシックコンサートを開催した。また、9 月 16 日に濱野画伯展覧会記念コンサート（丸紅ホール）に附属中・高生 20 名が参加した。

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための取組

① 組織運営機能の強化

- ・ 大学(短期大学、附属学校等を含む)の円滑な運営を図ることを目的とする「責任者会議」を 7 月 20 日と 12 月 21 日に開催し、理事長・学長の講話の後、各部門の情報共有と連携強化促進に努めた。
- ・ 9 月 7 日に FD/SD 合同研修会を開催し、杉谷宣紀城西大学助教を講師として、データサイエンスに関する講演を行っていただき、教育現場でも問題となっている「生成 AI、Chat GPT」について教職員の理解を深めた。
- ・ 事務職員の業務に必要な知識及び技能の習得とその能力及び資質向上を目的として、7 月 20 日に責任者を対象に、9 月 7 日には中堅・若手事務職員を対象にして SD 研修会を実施した。本学園カウンセラー田端真生子講師から、それぞれ「本学学生生徒のカウンセリングの現状」、「支援者側のメンタルヘルス」をテーマに取り上げ、職員一人一人の資質能力、意識の向上を図った。

② 教育研究組織の充実・強化

- ・ ICT に関する知識の習得を目的として、外部団体が主催する ICT 研修会に事務職員を受講させ職員の資質向上を図った。
- ・ 大学・短大の後援会組織の総会に管理職の教職員が出席したほか、同窓会組織の邦友会が企画する事業に卒業生情報センター職員が出席し円滑な協力関係の維持強化を図った。

③ 事務等の効率化・合理化の推進

- ・ 業務と組織の効率化を図るため、事務職員の積極的な採用に務めて組織の活性化を図った。また、留学生センターに外国人教職員を採用し日本語の授業を担当するほか、外国人留学生の学修支援として配置し、サポート体制の強化を図った。
- ・ 事務組織の円滑な業務の遂行を図るため、附属校及び大学組織の管理職を中心として組織する責任者会議を 7 月と 12 月に開催し、業務報告のほか各部門に関する課題等の解決に向け協議し連携を図った。
- ・ 事務職員の人事ヒアリングを実施し、適正な人事配置に務めた。

(2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

① 収入の確保

- ・ 学園の過去 10 年間の財務状況を分析し、収入・支出の傾向と課題を洗い出し、今後の財務計画の参考にするための資料を作成した。
- ・ 部門別の学生生徒等納付金データを参考に、学生募集活動の基礎資料として活用した。

② 経費の抑制

- ・ 近年の決算分析等を基に、関係部署において、真に必要とする経費執行の精査を行い経費節減に努めた。
- ・ 前年度実績を基に、経費執行の精査を行い、管理的経費の節減に努めた。

③ 資産の運用管理の改善

- ・ 複数の金融機関による引き合いの実施など、資金運用計画を作成し、効率的かつ効果的に資金運用を行った。
- ・ 本学園の資産を洗い出し、所有する土地の市場価値について市場調査を行い、将来の資金需要に資するための資料を作成した。

(3) 施設設備整備、安全管理及び法令順守等に関する目標を達成するための取組

① 施設設備の整備・活用等

- ・ 修学環境整備として、文京キャンパスのパフォーマンス総合芸術文化専攻教室への大型モニター設置、川越キャンパス 9 号館全館 LED 化等を行った。
- ・ 学内環境の利便性向上と衛生環境を確保するため、9 号館、12 号館、13 号館のトイレをウォシュレット機能付トイレに改修工事を行った。その他、経年劣化の修繕としてグランツザール及び 16 号館の GHP 空調設備の修繕工事を行い教育環境の維持に努めた。

- ・ ICT 環境整備の一環として進める「無線 LAN 整備計画（令和 3～5 年度）」に基づき、文京キャンパス 2 号館・7 号館の無線 LAN 設備整備工事を終え、文京・川越両キャンパスの全館整備計画が完了した。これにより学生生徒・教職員が教育研究、学習に自由にアクセスが可能な安定したネットワークを提供し、デジタル教材など幅広いシーンで有効的に利活用されるものとなった。
- ・ 文京キャンパス 7 号館の教室・レッスン室の照明設備を節電効果の高い LED 照明に順次交換を進め令和 5 年度末時点で 8 割程度完了した。引き続き LED 化計画を進め令和 6 年度中に 7 号館全館の完了を目指すこととし、安全で明るい快適な教育環境の向上に努めていく。

② 安全管理の充実・強化

- ・ 消防計画に基づき附属学校生及び大学生、教職員の合同による防災避難訓練を実施したほか、教職員組織で構成する防火防災対策委員会を開催、大規模災害が発生したことを想定した動画の視聴や昨今多発する自然災害への備え等、防災に対する重要性を理解するとともに危機意識を高めた。また、SDGs の取組の一つとして賞味期限前の非常食を学生に配布、非常食の体験とともに廃棄の減量削減に努めた。
- ・ 川越キャンパスの屋外防犯カメラ 4 台を高性能ハイビジョン広角防犯カメラと HDD レコーダに更新したほか、設置場所を見直し、より広範囲に監視が可能な場所に置き換え防犯セキュリティに対する強化を図った。
- ・ 災害時における対策として、学生及び教職員の安心・安全を確保するためポータブル発電機、浄水器を整備したほか、安否確認・緊急時連絡網として導入している「さくら連絡網通信アプリ」を平常時から活用し、緊急時でも速やかに連絡が取れるよう、災害時に対する意識の向上を図った。

③ 法令順守の徹底等

- ・ コンプライアンスに対する取り組みとして、研究不正防止に関する相談窓口、公益通報相談窓口、ハラスメントに対する対策、育児・介護休業制度の対応などコンプライアンスに関する情報を本学 Web サイトに掲載し広く周知した。
- ・ 教員オリエンテーションにおいて、令和 5 年度に策定した「障がい者に関する基本方針」に基づき、多様な学生に対する教育支援に関する基本的な考えや配慮の在り方など、教員への共通理解と意識の向上を図った。
- ・ 2023 年 4 月 1 日に改正労働基準法が施行されたことに伴い、非常勤講師就業規程を新たに制定した。併せて本学園の非常勤講師雇用契約書を見直し、明示が求められている必要な事項を記載した。

（４） 自己点検・自己評価及び情報公開等に関する目標を達成するための取組

① 自己点検・自己評価の充実

- ・ 令和 5 年 11 月、令和 4 年度事業を対象とした「東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検評価報告書」を作成・公表した。
- ・ 令和 5 年 6 月に東邦音楽短期大学自己点検評価書を取りまとめ、それらを基に、一般財団法人大学・短期大学基準協会による短期大学認証評価を受審した。

その結果、「本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、令和6年3月8日付で適格と認める」との評価報告を受けた。

- ・ その評価結果の中で、本学短大の取組において「優れている点」及び「向上・充実のための課題」として言及された事項は、次表のとおりである。

【優れている点】

- 自己点検・評価報告書に対して、有識者による外部評価を取り入れ、第三者による客観的な点検・評価が行われている。
- 本協会による内部質保証ルーブリックにおいて一定のレベルを満たし、全教職員が内部質保証に取り組んでいる。
- 選択科目「ウィーンアカデミー」では、オーストリア共和国ウィーン市に研修施設を置き、世界のトップクラスの教員から学ぶ機会を設けている。
- 教養課程において「東邦スタンダード」という独自の科目があり、全学生が2年間を通じて社会人としての教養を学ぶ機会となっている。
- 音楽を中心とした企業におけるインターンシップに単位付与を行い、実際に社会に出て働く経験を授業内で発表するなど、就職支援に向けた取組みを積極的に行っている。
- 「文京図書館ラーニングコモンズ」において、音楽専門の学生に対応した計画的な購入や運用を行っており専門的なニーズにきめ細かく対応している。

【向上・充実のための課題】

- シラバスの一部に、1 回ごとの講義内容ではなく数か月まとめた講義内容となっている科目、15 週目に試験を設定している科目、また、出席による加点・減点を含めている科目など、シラバスの記載に不備が散見されるため、「シラバス作成のためのガイドライン」に従って記載内容の確認を組織的に行い、改善が望まれる。
- 卒業及び免許・資格の取得を目的とする学生が修得すべき単位数については、必要な学修時間を確保し単位の実質化を図るために、年間又は学期において履修できる単位数の上限について、学則又は学則上に根拠規定を置いた規程に定める必要がある。
- 財務状況について、余裕資金はあるものの、学校法人全体及び短期大学部門で過去 3 年間の経常収支が支出超過となっている。今後、「東邦音楽短期大学経営改善計画」に沿って財務体質の改善に努めることが望まれる。
- 短期大学全体の収容定員の充足率が低いので、充足率をあげるよう努力されたい。

② 情報公開及び情報発信の推進等

- ・ 本学園に関する学校基本データ等の教育情報及び財務情報について、新たに公表項目を増やして学園 Web サイトに掲載し、広く周知した（6 月）。

コンクール等の受賞者①

【令和5年度：大学院・大学・短期大学】

コンクール等の名称	部 門	賞の名称	受賞者氏名	学 校	専攻・学年	備考
第1回 プリマヴェーラ 声楽コンクール	Amatori DIAMANTE	第一位 Premio per l' antiaging	馬場 のり子	短大	声楽専攻	R2年度卒業
第1回 ソレイユ日本歌曲 コンクール	プロフェッショナル 部門	第三位	泉関 洋子	大学	声楽専攻	H12年度卒業
2022年度 第14回 イタリア コンソルソ MusicArte	Stella 部門 学生の部	Gran Premio大賞 (最高賞)	小川 尚也	大学	Konzertfach (演奏専攻)2年	
第5回 日本奏楽コンクール	管楽器 部門 一般Aの部	奨励賞	梅本 直明	大学院	管弦打領域2年	
第2回 東京国際青少年 ピアノコンクール	A3部門	第三位	鶴岡 智優	大学院	ピアノ 領域2年	
第46回全日本ジュニア クラシック 音楽コンクール	大学2年生の部	第四位	植松 姫菜	大学	Konzertfach (演奏専攻)2年	
第33回日本クラシック 音楽コンクール	本選	優秀賞	鈴木 勇	大学	声楽専攻3年	
第2回東京国際管弦声楽 コンクール	大学生の部	第2位 (第1位該当者なし)	内山 紀佳	大学	管弦打楽器専攻2 年	
第87回 東京国際芸術協会 新人演奏会オーディション		合格	梅本 直明	大学院	管弦打領域2年	ファゴット 二重奏
			中原 優里	大学院	管弦打領域1年	
第5回 日本奏楽コンクール	管楽器部門 一般Aの部	第1位 現代音楽賞	高澤 沙季	大学／大学院	管弦打楽器専攻 ／管弦打領域	H30年度卒業／ R2年度修了
K国際コンクール 第1回秋のKサクソフーン コンクール	大学／一般の部	第1位	高澤 沙季	大学／大学院	管弦打楽器専攻 ／管弦打領域	H30年度卒業／ R2年度修了
第26回「長江杯」国際音楽 コンクール	管楽器部門 一般の部A	第2位	高澤 沙季	大学／大学院	管弦打楽器専攻 ／管弦打領域	H30年度卒業／ R2年度修了
第33回日本クラシック音楽 コンクール	サクソフーン部門 一般の部	第3位 (第1位・第2位 該当者なし)	高澤 沙季	大学／大学院	管弦打楽器専攻 ／管弦打領域	H30年度卒業／ R2年度修了
第11回 下田国際 音楽コンクール	一般部門	奨励賞	高澤 沙季	大学／大学院	管弦打楽器専攻 ／管弦打領域	H30年度卒業／ R2年度修了
第14回 香港国際ピアノ コンクール		第2位	鶴岡 智優	大学院	ピアノ 領域2年	
第33回 日本クラシック 音楽コンクール全国大会	声楽部門 大学女子の部	第3位	何 如錦	大学院	声楽領域2年	
第2回 プリマヴェーラ 声楽コンクール	埼玉大会准本選	入選／優秀賞	曾 静好	大学	声楽専攻4年	

コンクール等の受賞者②

【令和5年度：附属中学校・高等学校・第二高等学校】

コンクール等の名称	部 門	賞の名称	受賞者氏名	学 校	専攻・学年	備考
第2回 東京国際青少年ピアノコンクール本選	B5	第1位	依田 音芭	中学校	1年	
第45回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	ピアノ部門 中学1年生の部	第4位	川上 侑輝	中学校	1年	
第17回 草加市演奏家協会クラシック音楽ジュニアコンクール	D部門	第1位 草加市教育長賞	川上 侑輝	中学校	1年	
第45回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	ピアノ部門 中学1年生の部	審査員賞	古峰 蓮夏	中学校	1年	
第1回 音の杜学生ピアノコンクール	D級	審査員賞	古峰 蓮夏	中学校	1年	
第25回日本演奏家コンクール	ピアノ部門 中学生の部	奨励賞	柏本 桃花	中学校	2年	
第45回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	ピアノ部門 中学2年生の部	審査員賞	柏本 桃花	中学校	2年	
第45回 全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	声楽部門 高校生の部	奨励賞	山本 紫月	高等学校	1年	
中学生・高校生のための 第20回 日本管弦打楽器 ソロ・コンテスト	高校生部門	金賞 埼玉県教育長賞	河野 尊	高等学校	2年	
第28回 日本トロンボーン コンペティション	独奏部門	奨励賞	今 奏音	第二高等学校	3年	
第87回 東京国際芸術協会 新人演奏会	独奏部門	出演	今 奏音	第二高等学校	3年	
第2回 東京国際管弦声楽 コンクール	声楽部門 (ソプラノ)	5 位	森田 月渚	第二高等学校	2年	
第3回 国際声楽コンクール 東京	ミュージカル 高校生部門	奨励賞	森田 月渚	第二高等学校	2年	
第25回 日本演奏家コンクール	声楽部門 (テノール)	2 位	山川 信也	第二高等学校	2年	
中学生・高校生のための 第20回 日本管弦打楽器 ソロ・コンテスト	金管楽器の部 (ユーフォニアム)	金賞 埼玉県知事賞	本間 瞳	第二高等学校	2年	
第1回 にじいろピアノ コンクール関東ファイナル	ピアノ部門 E級	銀賞	宮内 小羽	第二高等学校	1年	

令和5年度 主な演奏会等実施一覧

2023年	演奏会・イベント名	内容	会場
6月14日 水	ふじみ野市音楽鑑賞教室	ウインドオーケストラ	東邦音楽大学 グランツザール
6月15日 木	南古谷小学校音楽鑑賞教室	ウインドオーケストラ	東邦音楽大学 グランツザール
6月16日 金	青梅市小学校音楽鑑賞教室	オーケストラ	福生市民会館 さくらホール
7月11日 火	さぎの森小学校音楽鑑賞教室	金管5重奏	さぎの森小学校 体育館
7月15日 土	第225回定期研究発表演奏会〔ソロの部〕	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
7月26日 水	シビックコンサート	声楽	文京シビックセンター 区民ひろば
8月4日 金	七タコンサート	サクスカルテット	ふじみ野交流センター
8月27日 日	TOHOサマーコンサート2023	オーケストラ	東邦音楽大学 グランツザール
9月9日 土	2音大クラシック・コンサート	オーケストラ	ウェスタ川越 大ホール
9月16日 土	文の京 カレッジコンサート	声楽	文京シビックホール 小ホール
10月7日 土	東邦ミュージックフェスティバル2023		東邦音楽大学
10月8日 日	東邦ミュージックフェスティバル2023		東邦音楽大学
11月16日 木	小さな子どものためのコンサート	打楽器アンサンブル	キラリふじみ
11月18日 土	第226回定期研究発表演奏会〔合唱の部〕	合唱	東邦音楽大学 グランツザール
11月19日 日	愛和病院チャリティフェスタ	サクスカルテット	愛和病院(野外)
11月23日 木	第227回定期研究発表演奏会〔ウインドオーケストラの部〕	ウインドオーケストラ	文京シビックホール 大ホール
11月25日 土	川越市大学間連携講座	オーケストラの魅力	東邦音楽大学 スタジオB
12月2日 土	東邦音楽大学大学院 1年生演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
12月3日 日	東邦音楽大学大学院 1年生演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
12月9日 土	第228回定期研究発表演奏会〔オーケストラの部〕	オーケストラ	ウェスタ川越 大ホール
12月10日 日	0歳からのコンサート in 南古谷	声楽・ピアノ・チェロ	川越市東部地域ふれあいセンター
12月17日 日	第14回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル2023	オーケストラ	東京芸術劇場 コンサートホール
12月20日 水	シビックコンサート	ハンドベル	文京シビックセンター 区民ひろば
12月24日 日	ユニクス南古谷クリスマスコンサート	ハンドベル	ユニクス南古谷(野外)
2024年	演奏会・イベント名	内容	会場
1月8日 月	ニューイヤーコンサート in 南古谷		東邦音楽大学 グランツザール
1月14日 日	第一生命川越支社 ニューイヤーコンサート	声楽	ウェスタ川越 大ホール
1月20日 土	TOHOコンサート2024 陸上自衛隊東部方面音楽隊&東邦音楽大学ウインドオーケストラ	ウインドオーケストラ	東邦音楽大学 グランツザール
1月21日 日	中学生・高校生のための第20回日本管弦打楽器ソロ・コンテスト 受賞記念演奏会 ～文部科学大臣賞選考会～	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
2月10日 土	東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
2月11日 日	東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
2月25日 日	日高市ファミリーコンサート	ウインドオーケストラ	ひだかアリーナ
2月28日 水	シビックコンサート	フルートアンサンブル	文京シビックセンター 区民ひろば
3月9日 土	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 卒業代表演奏会	ソロ	東邦音楽大学 グランツザール
3月23日 土	TJUPランド 子どもフェスタ ファミリーコンサート	打楽器アンサンブル	女子栄養大学
3月30日 土	第13回 音楽大学フェスティバルオーケストラ2024	オーケストラ	東京芸術劇場 コンサートホール
3月31日 日	第13回 音楽大学フェスティバルオーケストラ2024	オーケストラ	ミューザ川崎シンフォニーホール

フォトギャラリー

6月10日	土	第12回 北関東甲信越音楽系高等学校演奏会
-------	---	-----------------------



7月15日	日	第225回 定期研究発表演奏会[ソロの部]
-------	---	-----------------------



9月9日	土	2音大クラシックコンサート[ウェスタ川越 大ホール]
------	---	----------------------------



9月27日	水	東邦音楽大学附属東邦中学校・東邦高等学校クラシックコンサート [北とぴあ つつじホール]
-------	---	---



10月7日	土	東邦ミュージック・フェスティバル2023～祝・学園創立85周年記念～
10月8日	日	



10月25日	水	ハンガリー配信のための公開演奏収録[星野リゾートリゾナーレ八ヶ岳]
--------	---	-----------------------------------



10月26日	木	東邦音楽短期大学 卒業記念修学演奏旅行[沖縄県恩納村立仲泊小学校]
--------	---	-----------------------------------



11月18日	土	第226回 定期研究発表演奏会[合唱の部]
--------	---	-----------------------



11月23日	木・祝	第227回 定期研究発表演奏会[ウインドオーケストラの部] [文京シビックホール 大ホール]
--------	-----	---



12月2日	土	東邦音楽大学大学院 1年生演奏会
12月3日	日	



12月9日	土	第228回 定期研究発表演奏会[オーケストラの部] [ウェスタ川越 大ホール]
-------	---	--



12月17日	日	第14回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル [東京芸術劇場コンサートホール]
--------	---	---



1月20日	土	TOHOコンサート2024 (陸上自衛隊東部方面音楽隊&東邦音楽大学ウインドオーケストラ)
-------	---	--



2月10日	土	東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会
2月11日	日	



2月23日	金・祝	パフォーマンス総合芸術文化専攻卒業制作発表
-------	-----	-----------------------



3月9日

土

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 卒業代表演奏会



財 務 の 概 要

1. 決算の概要

(1) 令和5年度の状況

① 概況

令和5年度は新型コロナウイルス感染症からの復活の流れを受け、教学面、管理面に影響があり、収入面では学生生徒等納付金、付帯事業(各種演奏会、イベント収入)は前年を上回る結果となった。支出面では教学面でウィーン研修復活により外国旅費や講師報酬の増加、管理面ではエネルギー高騰による水道光熱費の増加が目立っているが、政府の負担軽減措置により、一時的ではあるが国内では電気・ガス料金が減少(対してウィーンは増加)している。

主な計算書類の状況は次のとおりである。

② 資金収支計算書

資金収支計算書は(第1表)に示すとおりで、収入総額(前年度繰越支払資金を除く)は13億2千4百万円、支出総額(翌年度繰越支払資金を除く)は15億2千万円で 1億9千6百万円の支出超過となった。

収入では、前年度に比べ、学生生徒等納付金が1千2百万円、付帯事業が6百万円増加、補助金は2千3百万円減少した。このうち1千2百万円は、短大の定員割れによる補助金の不交付が要因となっている。

支出では、交付金補填のある退職金を除く人件費で5百万円減少したが、教育研究経費で2千8百万円の超過となった。

翌年度繰越支払資金は、前年度比1億9千6百万円減の9億3千6百万円になった。

③ 事業活動収支計算書

事業活動計算書は(第3表)のように、支出超過ではあるが、当年度収支差額は前年度に比べ1億6百万円の増加となった。これは令和4年度に計上した大塚2丁目の土地売却損5千9百万円が今年度はないことと、施設設備寄付金4千2百万円があったことが要因となっている。

特別収支差額も、上記要因により1億4百万円増加し、4千6百万円になった。

翌年度への繰越収支差額は、前年度比△3億2千万円減少し、△65億6千4百万円になった。

④ 貸借対照表

貸借対照表は(第5表)で示すとおり、資産の部合計は前年度比△3億1千3百万減の127億円になった。

純資産の部合計は、前年度比△3億8百万円減の120億3千7百万円となった。

(2) 平成29年度以降の状況

平成29年度から令和3年度までの状況は、学生生徒等納付金については令和元年度に歯止めがかかったかに見えたが令和2年度には減少し、令和3年度、令和4年度、令和5年度で対前年微増となった。

引き続き学生生徒募集への注力と人件費、経費の削減に取り組んでいる。

貸借対照表では、資産の部、純資産の部ともに残高が減少しているが、(第6表)の貸借対照表関連財務比率の経年変化からも分かるように、「流動比率」が高水準、「総負債比率」、「負債比率」が低水準となっている。

これらは、本学園は短期的な支払能力が高いことを、また純資産額に比べ負債が極めて少ないことを示している。

(3)資金収支計算書関係

(第1表) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度①	令和5年度②	増減(②-①)
学生生徒等納付金収入	740,233	712,247	721,217	735,109	747,196	12,087
手数料収入	7,600	8,079	7,490	7,684	7,848	164
寄付金収入	4,608	2,899	12,270	2,110	45,230	43,120
補助金収入	226,064	242,271	204,190	211,102	188,481	△ 22,621
資産売却収入	200,000	0	100,000	110,000	601	△ 109,399
付随事業収入	55,414	34,016	41,891	48,425	54,844	6,419
受取利息・配当金	4,281	3,061	2,593	2,300	2,328	28
雑収入	39,633	23,164	89,637	34,533	59,421	24,888
借入金等収入	0	0	500	0	0	0
前受金収入	162,570	172,578	159,232	170,623	151,380	△ 19,243
その他の収入	1,250,868	319,311	314,391	348,625	300,247	△ 48,378
資金収入調整勘定	△ 226,187	△ 183,568	△ 264,753	△ 194,683	△ 233,308	△ 38,625
前年度繰越支払資金	1,226,947	1,555,749	1,361,567	1,209,417	1,132,344	△ 77,073
収入の部合計	3,692,033	2,889,812	2,750,228	2,685,245	2,456,613	△ 228,632

支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度①	令和5年度②	増減(②-①)
人件費支出	808,474	788,682	837,619	743,505	755,981	12,476
教育研究費支出	329,464	302,641	277,397	329,416	357,557	28,141
管理経費支出	190,731	146,688	150,790	138,576	134,562	△ 4,014
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	200	0	0	0	0
施設関係支出	4,725	21,450	32,217	12,415	18,568	6,153
設備関係支出	22,343	31,146	21,854	17,206	6,038	△ 11,168
資産運用支出	501,957	1,994	1,940	3,890	20,350	16,460
その他の支出	348,865	300,885	343,712	366,256	313,660	△ 52,596
資金支出調整勘定	△ 70,278	△ 65,443	△ 124,721	△ 58,363	△ 86,394	△ 28,031
翌年度繰越支払資金	1,555,749	1,361,567	1,209,417	1,132,344	936,291	△ 196,053
支出の部合計	3,692,033	2,889,812	2,750,228	2,685,245	2,456,613	△ 228,632

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

(第2表) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度①	令和5年度②	増減(②-①)
教育活動による資金収支						
教育活動資金収入計	1,069,200	1,008,768	1,058,612	1,031,569	1,049,330	17,761
教育活動資金支出計	1,320,296	1,236,518	1,265,035	1,210,876	1,248,100	37,224
差引	△ 251,096	△ 227,749	△ 206,423	△ 179,307	△ 198,770	△ 19,463
調整勘定等	△ 25,237	12,018	△ 21,963	17,639	△ 42,012	△ 59,651
教育活動資金収支差額	△ 276,333	△ 215,731	△ 228,386	△ 161,668	△ 240,783	△ 79,115
資金設備等活動による資金収支						
施設設備等活動収入計	913,757	2,600	11,970	111,910	43,631	△ 68,279
施設設備等活動支出計	27,068	52,596	54,071	29,620	24,606	△ 5,014
差引	886,688	△ 49,996	△ 42,101	82,290	19,024	△ 63,266
調整勘定等	△ 1,280	17,546	△ 6,711	△ 10,707	419	11,126
施設設備等活動資金収支差額	885,407	△ 32,449	△ 48,813	71,583	19,443	△ 52,140
小計 (教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額)	609,074	△ 248,181	△ 277,200	△ 90,085	△ 221,339	△ 131,254
その他の活動による資金収支						
その他の活動資金収入計	480,213	292,120	406,189	258,415	284,464	26,049
その他の活動資金支出計	760,530	238,113	281,156	245,405	275,566	30,161
差引	△ 280,316	54,006	125,032	13,009	8,898	△ 4,111
調整勘定等	44	△ 8	17	2	16,388	16,386
その他の活動資金収支差額	△ 280,271	53,998	125,050	13,012	25,286	12,274
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	328,802	△ 194,182	△ 152,149	△ 77,073	△ 196,053	△ 118,980
前年度繰越支払資金	1,226,947	1,555,749	1,361,567	1,209,417	1,132,344	△ 77,073
翌年度繰越支払資金	1,555,749	1,361,567	1,209,417	1,132,344	936,291	△ 196,053

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

(4)事業活動収支計算書関係

(第3表) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度①	令和5年度②	増減(②-①)
教育活動収支	事業活動収入の部						
	学生生徒等納付金	740,232	712,247	721,217	735,109	747,196	12,087
	手数料	7,600	8,079	7,490	7,684	7,848	164
	寄付金	1,418	299	352	228	2,200	1,972
	経常費補助金	226,064	242,271	204,190	211,102	188,481	△ 22,621
	付随事業収入	55,414	34,016	41,891	48,425	54,844	6,419
	雑収入	39,311	12,332	84,005	39,983	51,055	11,072
	教育活動収入計	1,070,041	1,009,247	1,059,149	1,042,531	1,051,625	9,094
	事業活動支出の部						
	人件費	807,347	790,759	838,974	743,947	755,371	11,424
	教育研究費	478,959	450,351	430,216	481,802	508,064	26,262
	管理経費	199,118	163,380	166,877	157,678	152,038	△ 5,640
	徴収不能額等	830	2,312	2,751	2,482	1,893	△ 589
	教育活動支出計	1,486,255	1,406,803	1,438,819	1,385,908	1,417,366	31,458
教育活動収支差額	△ 416,214	△ 397,556	△ 379,670	△ 343,378	△ 365,741	△ 22,363	
教育活動外収支	事業活動収入の部						
	受取利息・配当金	4,281	3,061	2,593	2,300	2,328	28
	その他の教育外収入	0	9,172	4,924	5,401	9,871	4,470
	教育活動外収入計	4,281	12,234	7,517	7,700	12,199	4,499
	事業活動支出の部						
	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
	その他の教育外支出	5,809	0	0	0	0	0
	その他の教育外支出計	5,809	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	△ 1,528	12,234	7,517	7,700	12,199	4,499	
経常収支差額		△ 417,742	△ 385,321	△ 372,152	△ 335,678	△ 353,542	△ 17,864
特別収支	事業活動収入の部						
	資産売却差額	0	0	0	0	601	601
	その他の特別収入	5,515	4,983	15,431	2,549	45,543	42,994
	特別収入計	5,515	4,983	15,431	2,549	46,144	43,595
	事業活動支出の部						
	資産処分差額	69,857	46	1,780	59,568	336	△ 59,232
	その他の特別支出	3,938	27,696	775	785	6	△ 779
	特別支出計	73,796	27,742	2,556	60,354	341	△ 60,013
特別収支差額	△ 68,280	△ 22,759	12,874	△ 57,805	45,802	103,607	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度①	令和5年度②	増減(②-①)
基本金組入前当年度収支差額		△ 486,022	△ 408,081	△ 359,277	△ 393,482	△ 307,740	85,742
基本金組入額合計		0	△ 31,574	△ 49,803	△ 36,546	△ 16,335	20,211
当年度収支差額		△ 486,022	△ 439,656	△ 409,081	△ 430,028	△ 324,075	105,953
前年度繰越収支差額		△ 5,626,730	△ 5,162,321	△ 5,601,977	△ 6,011,060	△ 6,244,036	△ 232,976
基本金取崩額		950,431	0	0	197,052	4,568	△ 192,484
翌年度繰越収支差額		△ 5,162,321	△ 5,601,977	△ 6,011,059	△ 6,244,036	△ 6,563,543	△ 319,507

(参考)

事業活動収入計	1,079,838	1,026,464	1,082,098	1,052,780	1,109,968	57,188
事業活動支出計	1,565,861	1,434,546	1,441,376	1,446,262	1,417,707	△ 28,555

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

(第4表) 事業活動収支計算書関連財務比率の経年比較

	計算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費比率	人件費 経常収入	75.1%	77.4%	78.7%	70.8%	71.0%
教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	44.6%	44.1%	40.3%	45.9%	47.8%
管理経費比率	管理経費 経常収入	18.5%	16.0%	15.6%	15.0%	14.3%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 事業活動収入	△45.0%	△39.8%	△33.2%	△37.4%	△27.7%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	68.9%	69.7%	67.6%	70.0%	70.2%
経常収支差額比率	経常収支差額 経常収入	△38.9%	△37.7%	△34.9%	△32.0%	△33.2%

(5)貸借対照表関係

(第5表) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度①	令和5年度②	増減(②-①)
固定資産	12,523,993	12,310,313	12,168,215	11,852,164	11,700,938	△ 151,226
有形固定資産	11,780,018	11,658,932	11,545,798	11,237,426	11,096,322	△ 141,104
特定資産	540,823	541,100	513,782	508,027	500,000	△ 8,027
その他の固定資産	203,151	110,280	108,634	106,712	104,617	△ 2,095
流動資産	1,599,572	1,482,677	1,309,683	1,161,499	999,504	△ 161,995
資産の部合計	14,123,566	13,792,990	13,477,899	13,013,662	12,700,442	△ 313,220
固定負債	287,256	315,533	317,387	307,157	305,147	△ 2,010
流動負債	330,313	379,542	421,874	361,351	357,881	△ 3,470
負債の部合計	617,570	695,076	739,262	668,508	663,028	△ 5,480
基本金	18,668,317	18,699,892	18,749,696	18,589,190	18,600,957	11,767
繰越収支差額	△ 5,162,321	△ 5,601,977	△ 6,011,059	△ 6,244,036	△ 6,563,543	△ 319,507
純資産の部合計	13,505,995	13,097,914	12,738,636	12,345,154	12,037,414	△ 307,740
負債及び純資産の部合計	14,123,566	13,792,990	13,477,899	13,013,662	12,700,442	△ 313,220

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

(第6表) 貸借対照表関連財務比率の経年比較

(単位:年・%)

	計算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{事業活動支出}}$	1.5年	1.5年	141.6%	1.2年	1.2年
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	484.3%	390.6%	310.4%	321.4%	279.3%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	4.4%	5.0%	5.5%	5.1%	5.2%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	4.6%	5.3%	5.8%	5.4%	5.5%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	951.8%	788.9%	788.9%	729.8%	663.5%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0%	99.9%	100.2%	99.1%	99.5%

2. 有価証券、借入金等の状況

① 有価証券の状況

(第7表) 令和5年度末(令和6年3月31日現在)保有有価証券

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 権	100,000	98,820	△ 1,180

② 借入金の状況

新規借入 該当なし

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	内 容	借入先	期 日
短期借入金	500	付属高校入学支度金	東京都私学財団	令和7年3月10日

③ 学校債の状況

該当なし

④ 寄付金の状況

令和5年度には、特別寄付金2, 200千円、施設設備寄付金43, 030千円、現物寄付701千円、合計45, 931千円の寄付があった。

⑤ 補助金の状況

令和5年度には、国庫補助金70, 304千円、地方公共団体補助金115, 864千円、東京都私学財団補助金2, 314千円 合計188, 481千円の補助金があった。

⑥ 収益事業の状況

該当なし

⑦ 関連当事者との取引状況

該当なし

⑧ 学校法人間財務取引

該当なし

3. 財産目録
(第8表)

財産目録(令和6年3月31日現在)

(単位:千円)

科 目		摘 要	金 額
(一)基本財産			
有価固定資産			11,096,322
土地	東京都文京区大塚校地ほか		6,884,719
建物	文京・川越キャンパス建物ほか		3,787,204
構築物	文京・川越キャンパス構築物ほか		25,488
教育用・管理用機器備品ほか			41,439
図書			357,471
積立金			500,000
施設設備拡充特定資産			500,000
その他固定資産			4,617
電話加入権ほか			4,617
基本財産合計			11,600,938
(二)運用財産			
現金・預金ほか			1,099,504
運用財産合計			1,099,504
資産額合計			12,700,442

科 目		摘 要	金 額
固定負債			305,147
長期借入金			0
退職給与引当金			305,147
流動負債			357,881
未払金ほか			357,881
負債額合計			663,028

正味財産額		12,037,414
-------	--	------------

※科目毎に千円未満の端数を切り捨てていますので、合計数値と合わない場合があります。

4. 主な財務関連用語の説明

資金収支計算書

教育研究等の諸活動に対して生ずるすべての資金収入及び資金支出の内容を明らかにして、支払資金のてん末を明らかにするものです。

事業活動収支計算書

教育活動収支、教育活動外収支及び特別収支の3つの活動別の収支ごとに事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにして、かつ年度収支の均衡状態を明らかにするものです。

貸借対照表

年度末の資産、負債及び純資産の状態を表すものです。

資金収支計算書及び事業活動収支計算書の主な共通科目

＜学生生徒等納付金収入＞

学生生徒等から納入される授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金等の収入です。

＜手数料収入＞

入学検定料、試験料や証明書発行に係る手数料収入です。

＜寄付金収入＞

金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、補助金収入とならないものをいいます。

事業活動計算書では、施設設備の拡充等に対するものは「施設設備寄付金」として特別収入に計上され、それ以外は教育活動収入に計上されます。

＜補助金収入＞

国または地方公共団体からの助成金をいい、事業団及びこれに準ずる団体からの助成金を含みます。

事業活動収支計算書では、施設設備の拡充等に対するものは「施設設備補助金」として特別収入に計上され、それ以外は教育活動収入の「経常費等補助金」に計上されます。

＜付随収入・収益事業収入＞

学校法人の教育研究活動のうち、付随的に生ずる事業収入で、学生生徒等の教育活動の補助的活動収入、外部からの委託を受けて行う受託収入、寄附行為に記載した収益事業からの繰入収入等が計上されます。

＜受取利息・配当金収入＞

金融資産の受取利息や配当金です。

＜雑収入＞

資金収入科目のうち、学生生徒等納付金収入から受取利息・配当金までの各科目以外の収入で、施設設備利用料収入、私立大学退職金財団交付金収入等を計上しています。

＜人件費＞

教職員等に支給する本俸・期末手当・各種手当、退職金財団掛金等です。

＜教育研究経費＞

教育研究活動や学生生徒等の修学支援・課外活動支援に支出する経費です。

＜管理経費＞

総務・人事・経理業務や学生・生徒募集活動等、教育研究活動以外の活動に支出する経費です。

資金収支計算書のみに計上される主な科目

＜資産売却収入＞

土地、建物、教育研究用機器備品、管理用機器備品等の施設設備の固定資産売却及び有価証券の売却に係る収入です。

＜前受金収入＞

翌年度分の学生生徒等納付金等が当年度に納入されたものです。

＜その他の収入＞

学生生徒等納付金から前受金収入までの各収入科目に含まれない収入です。前期末未収入金収入、預り金受入収入が主なものです。

＜資金調整勘定(資金収入調整勘定・資金支出調整勘定)＞

資金収支計算書には、資金収入調整勘定(期末未収入金・前期末前受金)と資金支出調整勘定(期末未払金・前期末前払金)が含まれています。資金収支は、当該年度における支払資金の実際の収支だけで計算したものでは不十分なため、前年度以前に収入、支出されたもので当年度の活動に属するものと、翌年度以降に収入、支出となるもので当年度の活動に属するものを含めて計算します。すなわち、支払資金の実際の収支と当年度の諸活動に対する収支とを一致させるための科目が資金調整勘定です。

＜施設関係支出＞

土地、建物、構築物等の取得に係る支出です。建物は、附属する電気、給排水、冷暖房等の施設設備を含みます。

＜設備関係支出＞

教育研究用機器備品、管理機器備品(本学においては取得価額が10万円以上のものが基準となっている。但し例外あり。)、図書等の取得に係る支出です。

＜資金運用支出＞

有価証券の購入や特定資産として積み立てるための支出です。

＜その他の支出＞

人件費支出から資金運用支出までの各支出科目に含まれない支出です。主なものは預り金支払支出、前期末未払金支出であり、預り金支払支出として給与等に係る源泉所得税等、前期末未払金支払支出として共済掛金・退職金掛金等を計上しています。

事業活動収支計算書のみに計上される主な科目・名称

＜事業活動収入＞

事業活動収入とは、教育活動及び教育活動外から得られる経常的な収入とその他の活動から得られる臨時的な収入の合計をいいます。

＜事業活動支出＞

事業活動支出とは、教育活動及び教育活動外から発生する経常的な支出とその他の活動から発生する臨時的な支出の合計をいいます。

＜教育活動収支＞

教育活動収支とは、教育活動に係る収支であり、経常的な収支のうち教育活動外収支以外のものをいいます。

具体的には、教育活動収入には、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入などが該当します。教育活動支出には、人件費、教育研究経費、管理経費などが該当します。なお、施設設備の取得に対する補助金、寄付金は、臨時的な収入として下記「特別収支」の特別収入に計上されます。

＜教育活動外収支＞

財務活動等に係る事業活動収入及び事業活動支出の収支をいいます。具体的には、教育活動外収入には、特定資産運用収入、その他の受取利息・配当金などが該当します。教育活動外支出には、借入金等利息などが該当します。

＜経常収支＞

経常収支とは、経常的な事業活動による収支のことで、臨時的な収支である特別収支を除いた教育活動収支及び教育活動外収支の合計をいいます。

＜特別収支＞

特別収支とは、臨時的な事業活動に係る収支で、教育活動収支及び教育活動外収支以外のものをいいます。

具体的には、特別収入には、資産売却差額、施設設備寄付金、現物寄付、施設設備補助金、過年度修正額などが該当します。特別支出には、資産処分差額、災害損失、過年度修正額などが該当します。

＜現物寄付＞

金銭ではなく物品による寄付です。資金の移動がないため事業活動収支計算書固有の科目になります。

＜資産売却差額＞

有価証券や教育研究用機器備品などを売却し、その売却収入が帳簿価額を超える場合、その差額を計上したものです。

＜基本金組入額＞

学校法人が教育活動を行っていくためには、校地、校舎、機器備品、図書、現預金などの資産を保有し、これを永続的に維持する必要があります。そのため学校会計では、当該年度にこれらの取得に充当した金額を基本金に組み入れる仕組みとなっています。この基本金の対象は「学校法人会計基準」において、次の4つに分類し規定されています。

第1号基本金: 設立当初に取得した固定資産並びに設立後新たな学校の設置、学部学科の増設、定員や実員の増加による規模の拡大及び教育の充実向上のために取得した固定資産の価額。

第2号基本金: 第1号の資産を将来取得するために充てる金銭その他の資産の額。

第3号基本金: 基金として継続的に保持し、且つ運用する金銭その他の資産の額。

第4号基本金: 恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額。

＜減価償却費＞

時間の経過により老朽化することで価値が減少する固定資産について資産としての価値を減少させるために計上する費用です。

＜資産処分差額＞

資産を使用不能等により除却、廃棄した場合、資産の帳簿価値を資産処分差額として計上します。

貸借対象表に計上される主な科目

＜有形固定資産＞

土地、建物、構築物、教育研究用機器備品、図書等の実態のある資産で会計年度末後1年を超えて使用される資産です（耐用年数が1年未満となった使用中の資産も含まれます）。

＜有価証券＞

会計年度末後1年を超えて保有するものは「その他の固定資産」、一時的な保有のものは「流動資産」に計上します。

＜特定資産＞

校舎その他施設の増設、改築等将来の特定の支出に備えるために資金を留保するために計上する科目です。

＜現金預金＞

現金、銀行預金、郵便貯金等で、この金額は資金収支計算書の「翌年度繰越支払資金」と一致します。

＜借入金＞

長期借入金: 返済期限が年度末後1年を超えて到来する借入金で、「固定負債」に計上されます。

短期借入金: 返済期限が年度末後1年以内に到来する借入金で、「流動負債」に計上されます。